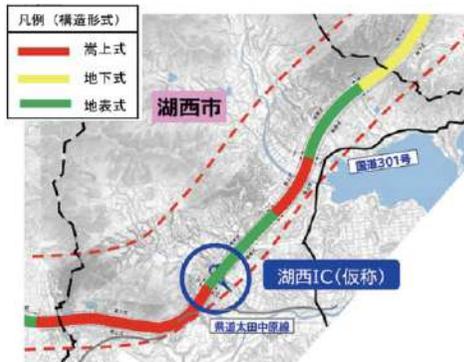
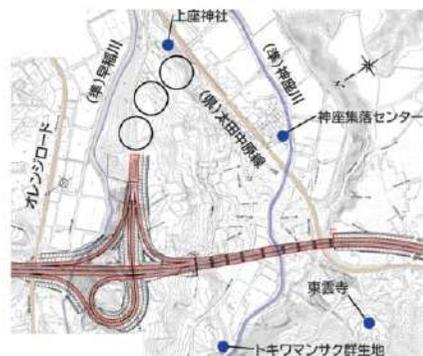


## 浜松湖西豊橋道路の整備について

令和7年11月、湖西市域に関する都市計画原案の説明会が開催されました。これまで示されていた1キロ幅の路線帯の中に、より具体的な道路線形が提示されました。技術的に見ると、沿線に点在する建物や施設、自然環境などをコントロールポイントとし、道路規格を考慮した上で適切な線形が設定されており、合理性がある計画と受け止めています。一方で、既存集落の近くを通過する区間もあり、住民生活への影響が懸念されることから、今後は各地区での説明会など行政による丁寧な説明が求められます。本道路は、将来の湖西市の発展にとって非常に重要であり、私も道路技術者の経験を生かして住民と行政を繋ぐ役割を果たしたいと考えています。道路計画について疑問や不安がありましたら、ぜひお気軽にご相談ください。



【市内の路線計画】



【神座付近IC計画】



【現場調査の様子】

### Profile

昭和51年(1976年)湖西市生まれ 東小学校卒業、湖西中学校卒業  
 浜松西高校卒業、横浜国立大学工学部卒業、政策研究大学院大学(修士課程)修了  
 JICA青年海外協力隊参加(ブータン)、(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル勤務、  
 株式会社コサイコンサルタンツ 代表取締役、技術士(建設部門・道路)、  
 NPO 法人ハピネス湖西 理事長(前向花畑の管理人)  
 静岡県議会議員(1期目:県議会会派ふじのくに県民クラブ所属)

### 皆さまの「声」をお聞かせください!

■ お住いの地域や日常生活でのお困りごと(例:道路、交通安全、防犯、防災、社会福祉、教育など)、管轄が市なのか県なのかよく分からない場合でもご相談ください。自治会や市議会議員さん等とも連携して課題に取り組みます。

■ ご連絡は、右の二次元コードをスマホ等で読み取り後、入力フォームに必要事項を入力してください。その他、メール、電話、FAXでもお受けいたします。

※こちらから返信や回答をお送りしますので、お名前と連絡先(電話番号、メールアドレス)をご記入ください。匿名でのご連絡はご遠慮ください。

ご意見・ご要望は  
こちら!



## 菅沼やすひさ事務所

〒431-0441 湖西市吉美 3257 コサイグリーンビル A-2H号室  
 ※湖西市役所西側の2階建建物の2階です。お気軽にお立ち寄りください。  
 TEL.053-543-5758 FAX.053-543-5759 ✉ suganuma.kosai@gmail.com  
 開所時間 / 平日 9:00~12:00 (土日祝、年末年始はお休みします)

SNSでも発信しています



ホームページ Facebook Instagram

おれんじ  
通信  
Vol.4  
2026年1月

# 「県政を身近に!」 動く男。県政レポート!

静岡県議会議員

## 菅沼 泰久

動く男

すがぬま やすひさ

【ごあいさつ】

静岡県議会議員の菅沼泰久です。昨年11月に県議として活動をスタートしてから、おかげ様で2年目を迎えることができました。12月定例会では、人生二度目となる一般質問で登壇し、改めて県政に携わる重責を実感しています。来年度予算編成では、500億円を超える財源不足が明らかとなっており、県民の幸福度向上を掲げる本県にとって難しいかじ取りが続きます。徹底的なコスト削減を実行しつつも、国が進める「責任ある積極財政」に乗り遅れることがないように、国や民間と連携しながらインフラ整備、防災、教育といった将来を支える重要な分野への投資をいかに進めるかが重要です。議員2年目も初心を忘れず、未来を見据えながら、故郷に貢献できるように全力で取り組んでまいります!

菅沼 泰久

## 主な活動報告

### ■ 県議会12月定例会

12/1~12/19まで開催され、物価高対策や知事など特別職の給与削減に関する補正予算案など、計59議案が可決・同意されました。私は12/8に一般質問を行い、6つの項目について県の考えを問いました。(詳細は裏面)



### ■ 常任委員会

今年度は「文教警察委員会」に所属し、県教育委員会が所管する「教育」と、県警察が担う「警察・治安維持」を所管分野として担当しています。新県立中央図書館整備、不登校対策、県立高校の今後、サイバー犯罪対応、交通安全対策など、県民のくらしに身近な課題に対して丁寧に取り組んでまいります。



### ■ 所属会派「ふじのくに県民クラブ」の活動

県議会第2会派の「ふじのくに県民クラブ」は、政党政治にとらわれない、真に地方の時代にふさわしい県民本位の議会運営を目指す政策集団です。9/19には恩師でもある政策研究大学院大学の日比野教授をお招きし、未来型公共交通に関する勉強会を開催。先進事例からの学びを政策提言に繋げてまいります。



会派  
YouTube

### ■ ラジオ出演(毎月第一木曜日夜7時~)

FMハロー(浜松エフエム放送:76.1MHz)の「KENGI DE Night!!」に、会派の仲間と共に出演しています。私の担当は、毎月第1木曜日の夜7時~7時30分です。県議の活動や県の取り組みなど、県政を身近に感じていただけるように発信します!



ライブ配信は  
コチラから



【特集】

# 県議会 令和7年12月定例会 一般質問(12月8日)

## Q1. 戦略的な地域外交の展開について

本県が全国に先駆けて取り組んできた地域外交について、国際ネットワークを活かしながら今後どのように戦略的に展開していくのか？



**A.** 県は平成24年度に地域外交基本方針を策定し、重点6か国・地域を中心に交流を進めてきたが、国際情勢の変化により、国・地域を先に定める進め方に課題が生じていた。今回の基本方針の改訂では、限られた人員・予算の中で県民や県内企業のメリットを最大化するため、取組を先に定め、効果の高い国・地域へ展開する戦略的手法へ転換する。交流人口拡大と海外活力の取り

込みを柱に、インバウンド誘致や高度外国人材活用、スタートアップ連携など8つの重点取組を設定。欧州でのウェルビーイング施策、BRICS諸国との人材交流強化、世界都市自治体連合(UCLG)や国際協力機構(JICA)の活用を通じ、地域外交を強化し、県民のウェルビーイング向上を目指す。

## Q2. PPP・PFIの推進について

県の財政状況が極めて厳しい中、「民間とともに公共をつくる」という発想で今後どのようにPPP・PFIの導入を進めていくのか？

PPP・PFIとは？

PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)とは、官民が連携して公共サービスを提供する仕組み全体を指す概念。PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)とはPPPの代表的手法であり、民間の資金や技術、経営力を活用し、公共施設の整備や運営を効率的に行う方式。

**A.** 行政経営の効率化に向け、県はPPP・PFI・コンセッションなど官民連携を積極的に導入し、コスト削減とサービス向上を図っている。一方で、職員の知識やノウハウ不足、民間が参画しやすい環境整備が課題であるため、国の専門家派遣を活用した研修や、施設課題を示した民間との対話の場を設けている。行政経営戦略会議の提言を

踏まえ、広域インフラ管理や公共施設運営へのコンセッション導入に向けた協議も開始した。さらに、公共調達で競争入札を拡大し、来年度から総合庁舎のエレベーター保守点検に導入するなど、官民連携により県有施設の経営効率最適化を進める。

## Q3. 次世代に向けたインフラDXの取組について

「ウーブン・シティ」の開業が話題を集める今、インフラ分野におけるデジタル技術の活用を加速させるための県の取組は？



**A.** 県は全国に先駆け、令和元年度から三次元点群データの取得を進め、今年度末には県土全体の仮想空間を構築する。データは災害時の被害分析や土木施設管理、公共測量の効率化に加え、オープンデータとして研究機関や民間にも活用されている。あわせて、高精度な位置情報を得られる電子基準点を県全域に整備し、年度末か

らの運用を開始する予定である。これにより、建設工事の自動化や自動運転、スマート農業などへの活用が期待される。建設業界の担い手不足解消に向け、ドローンやAIによる省力化や遠隔支援を進め、インフラ分野のDXを加速し、安全・安心な県土づくりを目指す。



一般質問の録画データはこちらの二次元コードからご覧いただけます



## Q4. 漁業者や漁協の経営への支援について

水産業を取り巻く状況は年々厳しくなる中、漁業者や漁協の経営改善や地域の水産業全体の再生に関する県の取組は？



**A.** 今年度に設置した「水産業の未来づくりプラットフォーム」では、漁業者・漁協に加え、流通・加工業者や学識経験者が参画し、現地ヒアリングや専門家による経営分析を通じて課題と改善策を検討してきた。その結果、漁業者にはブランド化による魚価向上、漁協には民間連携や海業推進による事業利益向上が提案された。

さらに、漁港など地域資源を活用した観光や体験型コンテンツの創出により、地域経済と一体となった水産業の構築を目指す方向性が示された。県は市町や観光業者、金融機関と将来像を共有し、合意形成を進めることで、所得向上と持続可能な水産業の再生に繋げていく。

## Q5. 未来を切り拓く力を育む教育について

社会環境の急速な変化により将来を予測するのが難しい時代においても、世界や地域で活躍する創造力豊かな人材を育成するための施策は？



**A.** 社会の不確実性が高まる中、県は未来を担う子供たちに国際的視野と挑戦力、価値創造力を育むことを重視している。静岡県教育大綱では「未来を創造する力を育む教育」を掲げ、探究的な学びや起業家育成、海外インターンシップなどを推進している。さらに、高校生の海外留学を支援するグローバル人材育成事業では、県内産

業のニーズを踏まえた複数コースを設け、挑戦を後押ししている。今後は次期教育振興基本計画にこれらを位置付け、非認知能力やアントレプレナーシップの育成を進め、家庭・地域・企業と連携しながら、子供たちが主体的に挑戦できる教育環境づくりを進めていく。

## Q6. 超老芸術の推進について

本県が全国に先駆けて展開してきた「超老芸術」の成果を踏まえ、新たな才能の発掘を含めた高齢者の創造的活動の支援と認知拡大を今後どのように進めていくのか？

超老芸術とは？

「老いを超える」という字のごとく、高齢になってから、または高齢になってもなお、独自の創作を続ける高齢者による芸術表現のこと。

**A.** 県が目指すウェルビーイング向上において、文化芸術は重要な役割を担い、とりわけ本県発祥の「超老芸術」は、高齢者の健康や生きがい、社会参加を促す先進的な取組である。令和5年度の超老芸術展では、1,500点を超える作品を通じ、その魅力と意義を県民に広く発信した。今後は、地域のサロン等でのワークショップ開催や情報発信を強化し、高齢者の表現活動を後押しする。あわせて、世代を超えた共感と創造性を広げ、文化芸術の活性化を通じて社会全体のウェルビーイング向上につなげていく。

